

産業界等と連携した学びの実践事例

学校名	岡山県立倉敷青陵高等学校
実践場面	総合的な探究の時間（青陵探究）
実践日時（時期）	通年
対象生徒（学年）	2年生
連携の形態	☐ 包括連携協定（ 商工会議所・商工会 ） ☒ その他（ 本校の外部連携組織や地元企業 ）
学びの分類	☒ 講演会講師・説明会 ☐ 技術指導 ☐ 企業訪問・インターンシップ ☐ 商品開発・共同研究 ☐ 最新技術・設備の見学 ☒ その他

実践の内容

【現状】

本校では、2年生の「総合的な探究の時間（青陵探究）」において、生徒が主体的に学びを深めるために、学問分野ごとに探究活動を実施している。具体的には、9つの領域（文学、経済、歴史・法学、心理、数理、情報、医療、健康・栄養、教育）に分かれ、領域ごとに3～4人の小グループを編成し、テーマを設定して研究活動を行っている。

この探究活動においては、専門的な知識の獲得や研究の質の向上を図るために、外部の専門家の意見をどのように効果的に取り入れるかが毎年の課題となっている。これまで、生徒は文献調査やインターネットを活用した情報収集を行いながら研究を進めてきたが、実際の専門家の知見を得る機会は限られており、より実践的な学びを深めるための工夫が求められていた。

【実践内容】

今年度は、外部の専門家との連携を強化するために、領域ごとに専門家を招聘し、講演会を実施した。これにより、生徒は各分野の最新の知見や専門的な視点を直接学ぶことができ、自身の探究テーマに対する理解を深める貴重な機会となった。

さらに、探究活動の過程において、生徒が研究内容を発表し、専門家からフィードバックを得る場として、中間発表会および最終成果発表会を開催した。これらの発表会には、本校が連携する外部組織の専門家や、講演会で講師を務めてくださった方々を招き、生徒の研究発表に対する具体的な指導・助言をいただいた。



中間発表会



講演会



最終成果発表会

実践による効果等

特に、専門家からの助言を受けることで、生徒たちは自身の研究の課題点を明確にし、研究の方向性をより精緻化することができた。また、発表を通じて、専門的な知見をどのように活用し、論理的に考察するかといった研究スキルの向上にもつながった。

今後は、これらの取組をさらに発展させ、より多くの専門家との交流機会を設けることで、生徒の探究活動の質を一層高めていくことが求められる。また、オンラインでの講演会や個別の研究相談など、新たな連携方法の導入も検討しながら、産業界との協働を通じた実践的な学びを促進していきたい。

※実践の様子が分かる写真等を適宜入れてください。（肖像権の確認等（特に企業側）は各校で行った上で提出してください。）